

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00787

研究課題名（和文）小学校英語教育に資する音声指導マニュアルの開発

研究課題名（英文）Development of a teacher's manual of English pronunciation for elementary school English education in Japan

研究代表者

上斗 晶代（Joto, Akiyo）

県立広島大学・人間文化学部・名誉教授

研究者番号：60196665

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：小学校教員への英語音声指導に対する支援として、特に外国語活動での指導に焦点を当てて英語音声指導マニュアルを構築した。構築にあたり、外国語活動用デジタル教材に出現する音声（分節音と超分節音）の出現頻度を分析し、基礎データとした。マニュアルには英語母語話者の発音動画、及び発音方法の説明、聞き取りと発音のポイント、指導のコツを掲載した。発音と指導のチェックポイントを記載し、教員の省察を促す仕組みを付した。同時に、ICT活用英語発音セルフラーニングシステムの構築を行い、自律学習を促す仕組みを作った。また、小学校児童と教員のアルファベット文字名称の発音を分析し、マニュアルの検証と改良を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究結果から、外国語活動の2年間で英語音声の基本的項目が全て出現し、指導が可能であることが明らかとなった。小学校中学年のこの期間の指導は、大学までの日本の英語音声教育の基礎を成すものと位置づけられ、適切な指導が重要である。しかし、小学校児童や教員の発音の実態を分析した研究はまだ少なく、小学校教員のための発音指導に関する支援は充実しているとは言えない状況である。本研究結果は、このような支援が十分進んでいない分野に一石を投じるものであり、小学校教員が英語音声の基礎知識を得て、自信を持って発音指導を行うための一助となることが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to create a comprehensive teaching manual on English pronunciation tailored for elementary school teachers. It began by examining the occurrence rates of both segmental and suprasegmental sounds present in teaching materials for third and fourth graders, serving as foundational data for manual development. The manual itself featured dynamic audio-visual resources showing native English speakers pronouncing English sounds, alongside detailed Japanese explanations on pronunciation and teaching techniques for each sound.

To further empower teachers, an English pronunciation self-learning system via ICT was devised, with its URL integrated into the manual. Additionally, to ensure accuracy, the pronunciation of English alphabet letter names by elementary school students and teachers underwent evaluation by native English speakers and acoustic analysis. These assessments aimed to validate the manual's descriptions, facilitating refinements based on the findings.

研究分野：英語音声学

キーワード：英語音声教育 小学校外国語活動 英語音声指導書 日本人英語学習者 英語アルファベット文字名称
音声音響分析 日英語対照音声学 教師オートノミー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) 小学校教員の英語音声基礎知識の不足

「小学校外国語活動」では音声中心の英語指導が行われ、音声教育は重要な位置を占める。しかしながら、上斗を中心とする研究グループが小学校教員を対象に行ったアンケート調査(2013年～2014年)の結果、外国語活動で発音指導が十分に行われていないことがわかった(三宅・上斗・西尾, 2016)。その背景には、小学校教員の英語音声の基礎知識の不足があり、自身の発音と発音指導に対する自信が持てない状況(「英語音声基礎知識を持っていること」と「発音指導への自信」「自身の発音への自信」には正の相関関係あり)があることが判明した(上斗・三宅・西尾, 2017)。

(2) 英語音声指導に関する小学校教員への支援不足

教員の英語音声に関する知識不足を補うための研修や外国語活動用の発音指導書が十分ではない状況下で(三宅・上斗・西尾, 2016; 上斗・三宅・西尾, 2017), 教員が発音方法や指導法を得ることは難しく、指導に不安を感じる小学校教員に対する支援が喫緊の課題である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、小学校教員が英語音声の基礎知識を得て、自信を持って発音指導に臨むための支援として、外国語活動用教材に対応した音声指導マニュアルを開発することである。英語音声に関する基礎的事項の記述だけでなく、各単元における発音、聞き取り、指導のコツを日英語音声対照の観点から記載する。また、適切な発音のためには音声情報のみならず、視覚的情報も重要であるため、英語母語話者の発音動画を作成し搭載する。これにより、英語音声の基礎知識を提供すると同時に、教員の自律学習を促す仕組みを構築する。

3. 研究の方法

(1) デジタル教材の分析

外国語活動用の現教材『Let's Try! 1』(小3対象/以後LT1), 及び『Let's Try! 2』(小4対象/以後LT2)の各単元の内容に対応したマニュアルとするため、両デジタル教材の音声全てを文字化し、各単元における分節音と超分節音の出現頻度を分析した。教材中の繰り返し部分は繰り返す回数をカウントした。超分節音については発話文のみ分析対象とし、歌やチャントは対象外とした。具体的な分析項目は、分節音では語彙の強音節の母音(文中で強勢を受けない語の母音は弱母音として扱った)、強音節頭の子音(気音を伴う無声閉鎖音の頻度も算出)、及び語末子音、超分節音では語彙の音節数、強音節の位置、発話文での音調核の位置と種類、核音調の種類、リズムユニット数、音調句数、1つの音調句における最大リズムユニット数とした。

(2) 英語音声指導マニュアルの作成

デジタル教材の音声分析の結果を踏まえ、教材に付属している教師用『指導編』の各単元に記載されている「言語材料」の語彙と表現を中心に取り上げ、単元毎に指導マニュアルを作成した。また、「言語材料」の語彙と表現を英語ネイティブ話者が発音している動画を作成し、URLとQRコードをマニュアルに記載した。

(3) 教員と児童の英語音声の評価と分析、及び音声指導マニュアルの検証と改良

英語アルファベット文字名称の発音に関する指導マニュアルの効果を検証するため、マニュアルを使用した小学校教員と児童が発音したアルファベット文字名称の発音について、英語母語話者による評価と音響分析を行った。その結果を踏まえて、マニュアルの改良を行った。

4. 研究成果

(1) デジタル教材の分析

語彙の音節数と語中での強音節の位置

LT1, LT2のデジタル教材に出現する語(繰り返しを含む)の7割以上が単音節語(LT1: 77.6%, LT2: 76.4%)で、2音節語を含めると9割以上を占めた(LT1: 95.8%, LT2: 94.8%)。LT1の語で最大音節数は5音節、LT2では6音節であった(複合語)。単音節語が多いこともあり、第一音節が第一強勢を受ける語が両教材ともに9割以上を占めた(LT1: 94.9%, LT2: 95.4%)。この中には発話文中で強勢を受けない機能語を単独で発音した場合(強勢を伴う)も含まれる。この結果より、小学校外国語活動で児童が発音したり、聞いたりする語のほとんどは2音節以内の短い語で、最初の音節を最も強く発音する語であることがわかる。

強音節の母音の種類と出現頻度

両教材それぞれにおいて、強音節の母音音素全20種類と弱母音6種類が出現した。LT1の語彙延べ出現数4,589の中で、最も頻度が高かった強音節母音は/aɪ/(19.5%)、次いで/ɛ/(11.1%)、/i:(10.3%)であった。LT2においても、延べ出現語彙数5,584中、/aɪ/(15.6%)が最も高頻度で出現し、次いで/i/(12.9%)、/ɛ/(10.3%)であった。最も出現頻度が低かった母音はLT1では/ɔɪ/, /ʊə/(0.04%)、LT2では/ɛə/(0.04%)で、それぞれ2回の出現のみであった。

最高頻出母音/aɪ/において、強勢を受けない機能語(第一人称)の音も含まれており、LT1にお

いては出現数の45%、LT2では49.3%が機能語での音であった。また、機能語での/i/の出現は、LT1では17.9%、LT2では52.6%であった。機能語の弱母音は出現母音全体の約四分の一を占めており(LT1:24.4%、LT2:25.8%)、日本人学習者にとっては発音し難い音であるが、英語の強弱リズムに関わるため指導上重要である。弱母音として出現頻度が最も高かったのは、両教材ともschwaと呼ばれる/a/であった(LT1:6.0%、LT2:5.4%)。

外国語活動最初の1年間で、出現頻度には差があるものの、弱母音を含めて全ての英語母音音素が出現することがわかった。

強音節頭の子音の種類と出現頻度

LT1, LT2それぞれ48種類の子音と子音結合が出現した。両教材共に、単子音は語頭に出現しない/h/, /ʒ/を除く22種類(/ʌ/を含めると23種類)の全子音音素が出現した。最も出現頻度が高い子音は、LT1では/l/(11%)、LT2では/t/(8.1%)、最も低頻度の子音は両教材とも/f/であった(LT1:0.14%、LT2:0.31%)。/t/はLT1でも3番目に頻度が高く(7.5%)、その内の9割以上が気音を伴う音であった。英語無声破裂音/p, t, k/は氣息音が弱いと、有声音に聞き間違えられやすい。強音節頭の/t/, /p/, /k/は気音を伴って発音する指導と練習が必要である。

子音結合はそれぞれの教材で25種類出現した。頻度はLT1で13.1%、LT2で11.8%と1割強であった。最高頻度の子音連結は、LT1では/θr/(1.8%)、LT2では/pl/(2.2%)、最低頻度はLT1では/dr/, /kl/, /kw/, LT2では/kw/, /sm/で、それぞれ1回(0.03%)の出現であった。2子音の連結がほとんどであるが、LT1には3子音連結が2種類(/str/:1.3%、/skw/:0.2%)、LT2には/str/(0.8%)出現した。単子音と比較して頻度は高くないが、子音結合は日本語にない現象であり、日本人学習者にとって発音困難であるため指導上の注意が必要である。特に、/str/, /skw/のような/s/の直後に結合する無声破裂音は気音を伴わないことにも注意する。

語末子音の種類と出現頻度

語末子音の出現種類は子音結合を含めてLT1で46種類、LT2で53種類であった。両教材ともに単子音より子音結合の種類が多く、LT1で単子音16種類、子音連結30種類、LT2では単子音19種類、子音連結34種類であった。子音結合は両教材ともに2子音結合が最も多いが、3子音結合と4子音結合も出現している(LT1:3子音連結7種類、4子音連結1種類/ŋglz/, LT2:3種類連結7種類、4子音連結2種類/nslz/, /ndlz/)。

最も出現頻度が高かった語末単子音は、LT1は/n/(14.0%)、LT2は/m/(13.1%)で、子音結合は両教材ともに/ts/(LT1:6.7%、LT2:8.2%)であった。語末の/n/を日本語「ン」(/n/)で代用しない指導が必要である。また、/t/は両教材ともに出現頻度が三番目に高く(LT1:8.7%、LT2:11.5%)、強音節頭の/t/とセットで発音と聞き取り上の指導が重要である。つまり、語末/t/は気音を伴わない音であり、強音節頭の/t/とは音声的には異なるが、音韻的には同じであることを明示的に教え、将来的な音韻認識に繋げる必要がある。両音の違いを聞き取る指導を行うことが重要である。

最も低い頻度の単子音はLT1では/θ/(0.08%)、LT2では/b/(0.03%)であった。全体で出現率が最も低かったのは、LT1では子音連結/ml/, /nts/, /sk/, /tl/(いずれも0.04%)、LT2では/b/, /blz/, /ndlz/(いずれも0.03%)で、出現回数は1回だった。

/ʒ/はLT2に語中子音(Indonesia)として2回出現しており、強音節頭と語末に出現する子音を合わせると、2年間の外国語活動で全ての英語子音音素が出現する。日本人学習者にとって発音困難な子音結合も多くの種類が出現するため、子音間や語末子音後に母音を付加しないよう学習初期段階に十分な指導と練習が必要である。

発話文中の音調核の種類と出現頻度

発話のイントネーションの中核となる音調核の種類は大別して、文脈に依存しない「広いフォーカス」(BF)と文脈依存の「狭いフォーカス」(NF)があるが、LT1, LT2ともにBFの出現率の方が多く(LT1:63.2%、LT2:89.1%)、発話の最後の強音節に音調核が置かれる場合が大半を占めた。NFには「対比」と「新情報」の種類があるが、LT1, LT2ともに「新情報」の方が多く出現した(LT1:23.4%、LT2:6.2%)。これは、“what”や“how many”を使った疑問文に対する応答文が出現したことによるものである。

核音調の種類と出現頻度

英語の基本的核音調には下降調、上昇調、下降上昇調、平坦調、stylized toneの5種類があるが、両教材ともにこれら全ての音調が出現した。下降調が最も多く(LT1:71.4%、LT2:66.8%)、上昇調がこれに次いだ(LT1:21.2%、LT2:23.3%)。外国語活動においては、全発話文のおよそ9割に下降調、あるいは上昇調が使用されていることがわかった。最も頻度が低かった音調は、両教材ともにstylized toneであったが、この音調は日常生活での決まり文句でよく使われ(good-bye, see youなど)、表現とセットで指導する必要がある。

発話文中の音調句の数

LT1, LT2ともに1つの音調句で構成される発話の出現が8割近くあり(LT1:78.9%、LT2:77.8%)、2番目に高い頻度で出現した2つの音調句を持つ発話(LT1:16.9%、LT2:15.0%)と合わせると、両教材ともに9割以上が1つ、ないし2つの音調句で構成された発話であることがわかった。1つの音調句には必ず1つの音調核があり、音調が変化する。2つの音調句を持つ発話の一つのポーズで区切られている場合が多く、ポーズ前後の2つの音調句内の適切な音節で音調を変化させる(音調核と核音調の選択)必要があるため、発音の難易度が上がる。まずは音調句一つの発話を十分に指導する必要がある。

発話文中のリズム単元の数

強音節を中心としてその前後に弱音節が位置するリズムの単位をリズムユニット（RU）という。発話文におけるRUの数は発話を構成している強音節数と一致し、RU数が多くなれば発音難度が上がると予想される。分析の結果、LT1、LT2ともにRU3つまでで構成される発話文の出現率が大半を占めた（LT1: 1RU=33.6%、2RU=41.3%、3RU=18.7% / LT2: 1RU=27.7%、2RU=35.2%、3RU=21.2%）。注目する点として、LT2において3つのRUを持つ発話文の出現が増えていることである。リズム指導においては、RU1つの文から始め、特に4年生においては、RU3つまでの文のさまざまな強弱パターンが適切に発音できるよう練習するとよいであろう。

一つの音調句における最大リズム単元数

各発話文を構成する音調句の中で、最も多くのRUを持つ発話文の出現率を分析した。その結果、LT1、LT2ともに最大1つのRUで構成された音調句を持つ発話が最も多く、最大RU数が1つから3つの発話文が9割以上を占めることがわかった（LT1:1RU=47.8%、2RU=34.9%、3RU=15.6% / LT2:1RU=38.5%、2RU=34.4%、3RU=21.2%）。LT1とLT2で異なる点は、LT2では最大RU1つの発話文が減少し、最大RU数が3つ、あるいはそれ以上のRUを含む音調句を持つ発話の出現が増えていることである。1つの音調句におけるRU数が増えると、音調核の位置決定の際の選択肢が増し、発音難易度上がる。出現率は単元による違いもあるため、複数のRUを持つ音調句が出現した時点で、音調の選択とともに、音調核の位置を明示的に指導することが重要である。

(2) 英語音声指導マニュアル構築

デジタル教材の分析結果より、小学校外国語活動の2年間で全ての英語の母音と子音音素、基本的音調が出現することがわかった。単元によって個々の音声の出現率が異なるため、各単元で出現率の高い音声項目を優先的に取り上げた。教材付属の教師用『指導編』には、教員と児童が実際の活動で使用する表現と語彙が「言語材料」として各単元に記載されている。この「言語材料」を中心に、教材分析の結果を踏まえながら、発音と聞き取りのポイント、及び指導のコツを記載した。また、各単元の最後には「発音と指導のチェックポイント」をCan-do記述文で記し、当該単元で目標とする音声項目について振り返りの仕組みを設けた。

「言語材料」の付属音声はないため、英語ネイティブ話者の発音動画を作成し、URLとQRコードをマニュアルに記載した。発音に同期してリズムとイントネーションを大小ドットと矢印で示し、視覚的支援を施した。アルファベット文字名称の発音動画は、日本語での発音方法の説明入りで、顔正面と側面からの映像、口元のズーム映像があり、発音時の口元の情報がわかるようにした。発音動画はアメリカ英語（カリフォルニア州出身者とミネソタ州出身者）、オーストラリア英語、カナダ英語を掲載した。また、母音、子音、子音連結それぞれの発音方法を日本語で説明した発音動画のURL、QRコードを掲載した。また、ICTを活用した英語発音セルフラーニングシステムを構築した（<https://npl-mock.glexa.net/>）。マニュアルの閲覧先：https://drive.google.com/drive/folders/1hjOhv8zyWAjWYMCyfWIZdwVZ6HW5axwC?usp=drive_link

(3) 教員・児童の英語音声評価と分析、及び音声指導マニュアルの検証と改良

英語アルファベット文字名称の発音指導マニュアルを使用して発音練習を行った小学校教員の指導を受けた小学3年生の文字名称の発音を採録し、英語母語話者8名（米語、英語、カナダ英語、オーストラリア英語）による5段階評価（5を最高とする）を行った。表1は児童10人に対する評価結果である。児童の発音はT、V、Z、P、L（表中の黄色セル）に課題があることがわかった。音声学分析の結果、TとPは/t、p/の気音が不十分だったため、それぞれD、Bと誤認識されたこと、Vは/v/が/b/で代用発音された問題、Zは/z/が日本語「ジ」(/dz/)で代用発音されたためGに誤認識されたこと、Lは“暗いl/”の発音の難しさ（日本語「ラ」行子音/l/で代用）と末尾に母音付加の問題があった。

小学校教員2名が指導マニュアルを使用して、アルファベット文字名称の発音を20分間自己練習した。練習前後に採録した音声を英語母語話者3名が発音を5段階で評価した。その結果を表2に示す。評価スコアは2名の平均値である。表2より、全体として練習後の評価が上がり（3.78から3.94へ）、AやCなど大きく改善した発音（表中の緑セル）がある一方、LやVなど改善しなかった発音もあった（表中の黄色セル）。マニュアル使用後の教員へのアンケート結果より、内容充実、口元の情報、英語音声の知識習得、発音指導への自信などの肯定的評価の一方、分かり易さの面で工夫が求められた。

以上のことから、児童と教員の発音の問題点は共通しているところがあり、問題の音声の記述を改良した。アルファベット文字名称の発音については、専門用語の使用を極力控え、発音と聞き取り、指導のコツを平易に記述した「簡易版マニュアル」と、英語音声について詳しい説明を記載した「詳細版マニュアル」の2種類作成した。詳細版は主に専科教員や詳しい知識を得たい教員を対象とし、「外国語科」でも参照できる比較的汎用性の高い内容とした。

本研究結果から、外国語活動の2年間で英語音声の基本的項目が全て出現し、指導が可能であることが明らかとなった。小学校中学年のこの期間の指導は、大学までの日本の英語音声教育の基礎を成すものと位置づけられ、適切な指導が重要である。しかし、小学校児童や教員の発音の実態を分析した研究はまだ少なく、小学校教員のための発音指導書は充実していない状況である。本研究成果は、支援が十分進んでいない分野に一石を投じるものであり、小学校教員への一助となることが期待される。英語音声指導マニュアルは、使用した教員からのフィードバックを得ながら、小学校教育の実情に合わせて今後改良を重ねていく予定である。

表1 日本人児童のアルファベット文字名称の発音の英語母語話者による評価

文字名称	評価スコア	文字認識率(%)	文字名称	評価スコア	文字認識率(%)
E	4.66	100	Q	3.86	95.0
X	4.51	100	A	3.79	93.8
U	4.49	100	F	3.69	92.5
I	4.38	97.5	K	3.54	87.5
D	4.36	97.5	M	3.54	77.5
G	4.35	97.5	W	3.54	97.5
H	4.19	100	N	3.45	85.0
Y	4.18	98.8	T	3.01	57.5
J	4.14	98.8	R	3.00	80.0
S	4.11	96.3	V	2.85	65.0
B	4.08	80.0	Z	2.73	51.3
O	4.08	97.5	P	2.70	42.5
C	4.01	97.5	L	2.14	58.8
平均				3.74	86.6

表2 小学校教員の練習前後のアルファベット文字名称の発音の英語母語話者による評価

文字名称	練習前		練習後		平均		文字名称	練習前		練習後		平均	
	評価スコア	SD	評価スコア	SD	評価スコア	SD		評価スコア	SD	評価スコア	SD	評価スコア	SD
A	3.67	1.21	4.33	0.87	4.00	1.04	N	3.67	0.82	3.67	0.79	3.67	0.80
B	4.33	0.52	4.17	0.79	4.25	0.65	O	4.00	0.63	4.50	0.58	4.25	0.60
C	3.83	0.75	4.33	0.58	4.08	0.67	P	4.00	0.89	4.33	0.58	4.17	0.74
D	4.50	0.55	4.00	0.87	4.25	0.71	Q	4.17	0.75	4.17	0.79	4.17	0.77
E	4.67	0.52	4.50	0.58	4.58	0.55	R	3.00	0.89	3.33	0.58	3.17	0.74
F	3.83	0.75	3.67	1.08	3.75	0.92	S	3.67	0.82	3.83	1.15	3.75	0.99
G	2.83	1.60	3.33	0.79	3.08	1.20	T	2.83	0.75	3.67	1.08	3.25	0.92
H	4.50	0.55	3.67	1.26	4.08	0.91	U	3.83	0.75	4.33	0.79	4.08	0.77
I	4.33	0.82	4.50	0.50	4.42	0.66	V	3.83	0.75	3.67	0.87	3.75	0.81
J	3.50	0.55	4.17	0.29	3.83	0.42	W	3.00	1.10	2.67	1.26	2.83	1.18
K	4.00	0.63	3.83	0.58	3.92	0.60	X	4.17	0.75	4.17	0.29	4.17	0.52
L	3.50	0.55	2.50	1.00	3.00	0.77	Y	3.83	0.75	4.33	0.58	4.08	0.67
M	3.67	1.51	4.50	0.58	4.08	1.04	Z	3.00	1.67	4.17	0.87	3.58	1.27
Mean								3.78	0.52	3.94	0.77	3.86	0.64

<引用文献>

- 阿部聡生, 戸井一宏, 上斗晶代 (2022). 『Let's Try!』準拠の発音マニュアルを用いた小学校教員への発音トレーニングの効果検証—パイロットスタディ』『実践英語音声学』, 第4号, 37-68.
- 上斗晶代, 三宅美鈴, 西尾由里 (2017). 『小学校英語活動に資する発音指導マニュアルの作成に向けて—英語発音指導の実態調査と教科書分析を基に—』『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』, 14, 143-160.
- 上斗晶代, 西尾由里 (2020). 『小学校外国語教材『Let's Try!』の超分節音に関する分析—小学校教員のための音声指導書作成に向けて—』『日本児童英語教育学会研究紀要』第39号, 143-158.
- 三宅美鈴, 上斗晶代, 西尾由里 (2016). 『小学校における英語音声指導に関する実態調査』『日英言語文化研究』Vol.5, 119-130.
- 文部科学省 (2018). 『Let's Try! 1 指導編』. 東京: 東京書籍.
- 文部科学省 (2018). 『Let's Try! 2 指導編』. 東京: 東京書籍.
- 文部科学省 (2018). 『Let's Try! 1・2』デジタル教材.
- Nishio, Y., Joto, A. (2022). Improving fossilized pronunciation by simultaneously viewing a video footage of oneself on an ICT self-learning system. *Second Language Pronunciation: Different Approaches to Teaching and Training*, 249-286.
- Joto, A., Nishio, Y. (2023). Intelligibility and related features of English sounds produced by young Japanese learners. *Proceedings of the 20th International Congress of Phonetic Sciences*, 2661-2665.
- Joto, A., Nishio, Y. (2024). Examining segmental phonemes in English teaching materials for Japanese elementary school children, KOTESOL 2024 発表資料.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Yuri Nishio, Akiyo Joto	4. 巻 1
2. 論文標題 Improving fossilized English pronunciation by simultaneously viewing a video footage of oneself on an ICT self-learning system	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Second Language Pronunciation: Different Approaches to Teaching and Training	6. 最初と最後の頁 249-286
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/9783110736120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 阿部 聡生, 戸井 一宏, 上斗 晶代	4. 巻 4
2. 論文標題 『Let's Try!』準拠の発音指導マニュアルを用いた小学校教員への発音トレーニングの効果検証 パイロットスタディー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 実践英語音声学	6. 最初と最後の頁 37-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57512/jpepsj.4.0_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yuri NISHIO	4. 巻 1
2. 論文標題 How Letter-sound Training and the Roman Alphabet Affect Japanese Children's Reading and Pronunciation of English	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 応用言語学と外国語教育研究－未来への展望	6. 最初と最後の頁 75-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 上斗 晶代, 西尾 由里	4. 巻 第39号
2. 論文標題 小学校外国語活動用教材『Let's Try!』の超分節音に関する分析－小学校教員のための音声指導書作成に向けて－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本児童英語教育学会研究紀要（JASTEC Journal）	6. 最初と最後の頁 143～158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計33件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 Yuri NISHIO, Akiyo JOTO, James ROGERS, Toru TATSUMI
2. 発表標題 The effectiveness of a multiple-support ICT-self learning system to improve English pronunciation of rhythm
3. 学会等名 61th JACET International Convention (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西尾由里, 巽徹, 上斗晶代
2. 発表標題 教員養成課程の学生に対するICT英語音声セルフラーニングシステムの効果
3. 学会等名 全国英語教育学会第47回北海道研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上斗晶代, 西尾由里, 戸井一宏
2. 発表標題 小学校外国語活動教材『Let's Try! 2』に準拠した音声指導マニュアルの開発
3. 学会等名 全国英語教育学会第47回北海道研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上斗晶代, 西尾由里, 戸井一宏
2. 発表標題 小学校外国語活動のための音声指導マニュアルの開発 『Let's Try! 1』に準拠して
3. 学会等名 第22回小学校英語教育学会（JES）四国・徳島大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西尾由里, 上斗晶代
2. 発表標題 ICT トレーニングによる日本人大学生の英語母音の調音認識の向上のための試み
3. 学会等名 第98回外国語教育メディア学会(LET)中部支部研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上斗晶代, 西尾由里, 戸井一宏
2. 発表標題 小学校児童の英語音声の分析 小学校音声指導マニュアル簡易化への示唆
3. 学会等名 日本言語音声学会 (JALS) 第6回研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yuri NISHIO, Akiyo JOTO, James ROGERS, Toru TATSUMI
2. 発表標題 A multiple-support ICT-self learning system to improve English pronunciation of rhythm and enhance autonomous learning
3. 学会等名 American Association for Applied Linguistics (AAAL) 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akiyo JOTO, Yuri NISHIO
2. 発表標題 Intelligibility and related features of English sounds produced by young Japanese learners
3. 学会等名 20th International Congress of Phonetic Sciences (ICPhS) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akiyo JOTO, Yuri NISHIO
2. 発表標題 Phonetic Features of English Diphthongs Produced by Japanese Elementary School Students
3. 学会等名 AILA Word Congress in Applied Linguistics 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuri NISHIO, Akiyo JOTO
2. 発表標題 The Improvement of Fossilized English Phonemes by Studying an ICT Self-learning System with the Learner's Self-videos Pronouncing English
3. 学会等名 AILA Word Congress in Applied Linguistics 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuri NISHIO
2. 発表標題 English Intonation by the Japanese Future Elementary School Teachers from the Perspective of Intelligibility
3. 学会等名 外国語教育メディア学会 (LET) 第60回全国研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuri NISHIO, Akiyo JOTO, James ROGERS, Toru TATSUMI
2. 発表標題 The Effectiveness of Multiple Supports of the ICT-Self Learning System to Improve English Pronunciation of Intonation
3. 学会等名 JACET 60th Commemorative International Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上斗 晶代, 西尾 由里, 戸井 一宏
2. 発表標題 小学校児童を対象とした英語アルファベット名称の発音指導マニュアル 外国語活動用教材『Let's Try! 1』, 『Let's Try! 2』に準拠して
3. 学会等名 日本言語音声学会第4回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上斗 晶代, 西尾 由里, 戸井 一宏
2. 発表標題 小学校外国語活動に資する英語音声指導マニュアルー『Let's Try! 1・2』準拠の内容と発音動画の提示
3. 学会等名 第20回小学校英語教育学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西尾 由里, 上斗 晶代
2. 発表標題 小学校教員のための英語発音ICTセルフラーニングシステムの提案
3. 学会等名 第20回小学校英語教育学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西尾 由里, 上斗 晶代
2. 発表標題 小学校教員へのICTセルフラーニングシステムを使った英語発音指導方法の提案
3. 学会等名 日本児童英語教育学会第40回秋季研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuri Nishio, Akiyo Joto
2. 発表標題 The Effects of Improvement of Fossilized English Phonemes by Studying an ICT Self-learning System with the Learners' Self-videos Pronouncing English
3. 学会等名 大学英語教育学会 (JACET) 第59回国際大会 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuri Nishio
2. 発表標題 EFL Teaching Struggling with Shifting Facilities, Pedagogies, and Practices in Japan
3. 学会等名 TESOL Convention 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上斗晶代, 戸井一宏, 西尾由里, 三宅美鈴
2. 発表標題 小学校外国語活動における英語アルファベット名称の発音指導マニュアル
3. 学会等名 日本児童英語教育学会中国四国支部春季研究大会2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上斗晶代, 西尾由里, 戸井一宏
2. 発表標題 小学校児童の発音による英語無声閉鎖音の分析 小学校外国語活動のための音声指導書作成に向けて
3. 学会等名 日本実践英語音声学会第2回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上斗晶代, 西尾由里
2. 発表標題 小学校児童の英語アルファベットの発音の実態調査
3. 学会等名 日本児童英語教育学会第40回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上斗晶代, 西尾由里, 戸井一宏
2. 発表標題 外国語活動のための音声指導マニュアル 超分節音に焦点をあてて
3. 学会等名 第19回小学校英語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西尾由里, 上斗晶代, 戸井一宏
2. 発表標題 小学校外国語活動における英語発音指導書の提案 Let ' s Try からの汎用性を求めて
3. 学会等名 第19回小学校英語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiyo Joto , Yuri Nishio
2. 発表標題 Phonetic Features of English Alphabet Produced by Japanese Learners: A Comparison Between Elementary School Children and University Students
3. 学会等名 Phonetic Features of English Alphabet Produced by Japanese Learners: A Comparison Between Elementary School Children and University Students (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上斗晶代, 山内豊, 西尾由里, 俣野知里
2. 発表標題 シンポジウム「小学校英語音声教育を考える 低年化と教科化を見すえて」
3. 学会等名 第33回日本音声学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西尾由里, 上斗晶代, 戸井一宏
2. 発表標題 大学生の英語アルファベット発音と構音イメージの改善
3. 学会等名 日本実践英語音声学会第3回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上斗晶代, 三宅美鈴, 西尾由里, 戸井一宏
2. 発表標題 小学校外国語活動に資する発音指導書の作成
3. 学会等名 日本英語音声学会関西・中国支部第19回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上斗晶代, 三宅美鈴, 西尾由里, 戸井一宏
2. 発表標題 小学校外国語活動のための音声指導書の作成 - 『Let's Try! 2』について -
3. 学会等名 第18回小学校英語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上斗晶代, 西尾由里, 三宅美鈴, 戸井一宏
2. 発表標題 小学校外国語科教材『We Can! 1・2』の音声指導書作成に向けて - 超分節音の分析と指導例 -
3. 学会等名 第44回全国英語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西尾由里, 上斗晶代, 三宅美鈴, 戸井一宏
2. 発表標題 小学校外国語科のための分節音の音声指導書への提案 - 『We Can! 1・2』について -
3. 学会等名 第44回全国英語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上斗晶代, 西尾由里, 三宅美鈴, 戸井一宏
2. 発表標題 小学校外国語科のための音声指導書 - 『We Can! 1・2』の分析に基づいて -
3. 学会等名 第23回日本英語音声学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上斗晶代, 西尾由里, 三宅美鈴, 戸井一宏
2. 発表標題 小学校外国語活動のための音声指導書 - 『Let's Try! 1・2』の分析に基づいて -
3. 学会等名 日本児童英語教育学会第38回秋季研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiyo Joto, Yuri Nishio
2. 発表標題 Examining segmental phonemes in English teaching materials for Japanese elementary school children
3. 学会等名 KOTESOL 2024
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Ubirata Kickhofel Alves, Jennifer Imaregna Alcantara de Albuquerque (ed)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 De Gruyter Mouton	5. 総ページ数 415
3. 書名 Second Language Pronunciation: Different Approaches to Teaching and Training	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>英語音声指導マニュアル https://drive.google.com/drive/folders/1hj0hv8zyWAjWYMCyfWlZdwVZ6HW5axwC?usp=sharing 英語発音セルフラーニングシステム https://www.npl-mock.glexa.net アルファベットの名称の発音（アメリカ英語）Ver.2 https://www.youtube.com/channel/UCNrF90TzkjBBZiuHSEtRg_w/playlists 英語発音トレーニングシステム https://npl-mock.glexa.net/ アメリカ英語（カリフォルニア）の発音：子音（閉鎖音） https://www.youtube.com/watch?v=H2vnyZsqWsk&t=63s アメリカ英語（カリフォルニア）の母音（/i:/） https://www.youtube.com/watch?v=LS330JEJE6M アメリカ英語（カリフォルニア）の子音連結の発音/str/ https://www.youtube.com/watch?v=qJ8_zQWw_Z0 アルファベットの名称の発音（アメリカ英語）Ver. 1 https://www.youtube.com/watch?v=KdtMQHLtA5c&feature=youtu.be</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西尾 由里 (Nishio Yuri) (20455059)	名城大学・外国語学部・教授 (33919)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	戸井 一宏 (Toi Kazuhiro)		
研究協力者	阿部 聡生 (Abe Akio)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関